

# NEC Make-a-Difference Drive



NEC 社会貢献室  
フィランソロピーエキスパート

**東 富彦**

NECグループでは、創立100周年を迎えた1999年より、世界各地のNECグループ社員が参加して様々な地域貢献活動をおこなう「NEC Make-a-Difference Drive (運動)」を実施している。この活動の目的は、社員がボランティア活動などを通して地域に貢献することで、社員自身が新たな自分を発見し、社会志向の高い企業マインドを育み、企業価値の向上に貢献することである。

## 世界各地で地域に貢献

NECは地域社会をお客さま、株主の皆さま、従業員と並ぶ大切なステークホルダーとして認識し、良き企業市民としての社会的責任のもと、「Nature, Education, Community : The Heart of NEC」をスローガンとし、自然環境、教育、地域の課題解決のための取り組みを、非営利団体やボランティア組織、行政、近隣の企業などと協働でおこなっている。

N : Nature = 自然 (地球環境保全活動)

E : Education = 教育 (青少年の育成活動)

C : Community = コミュニティ (地域課題へのチャレンジ)

— 昨年のNEC Make-a-Difference Drive 2005では、これまでで最多の延べ13万5千人のグループ社員が参加し、植林や子どものための環境教育、

インターネットやパソコン、携帯電話教室、養護施設訪問、米国ハリケーンやパキスタン地震などの自然災害被災者緊急支援など、それぞれの地域のニーズに即した1644の活動を24カ国412拠点で実施した。99年の第1回目からの参加延べ人数はこれまでに約50万人を数えている。

これら各拠点が独自でおこなう活動に加え、全国の社員が共通の物品を収集し、非営利団体を通じた開発途上国の支援に役立てる活動も実施している。使用済みの切手や外国コイン、書き損じハガキなど、普段机の中に眠っているものや、つい捨ててしまうものが社会のためになるのである。— 昨年は73kgの使用済み切手、84kgの外国コイン、5千枚の書き損じハガキなどを非営利団体に



ホッケークリニックで恵まれない子どもたちへ食品を寄付  
(NECアルゼンチン)

寄付した。

日本全国から集まったものは寄付する前に仕分け作業が必要である。その作業にはNECフレンドリースタッフ株式会社の社員が協力している。同社は働く意欲のある知的障がい者に雇用機会の提供と社会参加を目的に設立されたNECの特例子会社である。

## 表彰制度で積極参加を促す

NEC Make-a-Difference Driveでは地域社会への貢献を通じて、社員のモチベーションを高めることも大きな目的としている。実際にNEC Make-a-Difference Driveに参加することによって社員のモチベーションは確実に向上しており、社員からは次のような声が次々と寄せられている。

- ・社員同士の連帯感が生まれ、NEC社員としての誇りが持てた
- ・NECファミリーの一員としての自覚が持てた
- ・子どもたちにPCを寄贈できNECに誇りを持った

このような地域社会に対する社員の貢献に応えるために、NECはベスト・プラクティス・アワードという表彰制度を設け、毎年国内10拠点・海外10拠点を社長表彰している。この表彰制度がさらに社員のモチベーションを高め、活動への積極的な参加を促すという好循環を生んでいる。

## “NEC”らしさ生かして推進

NEC Make-a-Difference Driveは一般社会からも高い評価を受けている。2001年にボランティア功労者として厚生労働大臣から表彰を受け、2002年には朝日新聞文化財団から「2002年度企業の社会貢献大賞」を受賞するなど、社会的にも広く知られるようになってきている。

昨年は国内114名、海外121名にも上る推進コーディネーターを中心として、グローバルにNEC



インドネシア・ジャワ島地震の復旧支援に協力  
(NECインドネシア)

Make-a-Difference Drive 2006を展開した。5月に発生したインドネシア・ジャワ島地震に対しては、緊急の募金活動を展開して資金面での支援をおこなうとともに、現地に近いNECグループ企業各社が様々な形で災害復興支援活動に参加した。また、中国で日本語を勉強している学生に対して、日本語学習のための副読本を寄贈する新しいプログラムもおこなった。

\*

これからのNEC Make-a-Difference Driveの方向性を考えるにあたっては、「NECらしさ」が重要なキーワードになる。今後はとくに科学技術教育やITネットワークを活用した就労支援など「NECらしさ」を生かした取り組みを増やし、NEC Make-a-Difference Driveが「NECグループの強力な牽引役」となることを目指していく。

CSR（企業の社会的責任）への関心が高まる中、「NECらしさ」を生かしたプログラムを積極的に増やしていくことにより、社員は「自分たちが取り組んでいる事業が社会の課題解決に貢献している」という実感を強く持つようになる。その結果、NECグループ全体がNEC Make-a-Difference Driveをまさに牽引役として、一体感ある事業推進を実行していくことが可能となる。

### NECの社会貢献活動

<http://www.nec.co.jp/community/ja/index.html>